

26年度 自立支援協議会議事録

会議	部会名	第1回 重心・要医療的ケア 部会	参加者数	25人	会場	福祉まちづくりセンター 2階 大会議室
	日時	26年 6月 11日(水) 13:30 ~ 14:40				
主 テ ー マ	1 これまでの部会の経過について 2 今年度の活動内容について					
主 な 意 見 な ど	1 について(事務局より) ・部会活動の経過について、特に初めて部会に参加される方に向けて説明を行い、共通認識を深めた。					
	2 について (1)難病について(伊那保健福祉事務所より) ・難病医療法成立により、医療費助成対象疾患が約300疾患に拡大され、対象者数もほぼ倍増する等、最新の動きについて、詳しい資料をもとに、要点的に分かりやすく説明していただいた。 ・圏域の難病者の現状について、疾患別に分類した市町村ごとの対象者数が掲載された資料をもとに考察し、難病者の実態理解を深めた。					
	(2)上伊那地域小児長期入院児等支援連絡会について(伊那保健福祉事務所より) ・25年度よりこの連絡会は、発展・拡充され、「上伊那地域長期入院児等退院支援・在宅医療支援連絡会」として開催されている。 ・26年3月に開催された連絡会の様子について、実際の話し合いの中身などにも具体的に踏み込んだ貴重なお話をおききすることができた。 ・26年度の方向性として、訪問看護師対象の在宅医療研修会の開催、救急情報提供カードの作成、圏域の重度心身障がい児の実態把握などを行う予定であることが紹介された。					
	(3)当事者、家族の意見を聞くための部会活動について ・昨年度、伊那養護学校つくしグループの懇談会に部会として出向き、参加したが、有意義であったため今年度も引き続き参加する方向で進めていくこととなった。 今年度は7月4日(金)に実施予定である。(伊那養護学校担当教諭より)					
	(4)災害時支援について(各市町村担当者より) ・各市町村の取り組み状況について、災害時の要援護者台帳や支え合いマップの整備の様子などが紹介された。法改正を受け、各市町村でそれぞれ工夫した取り組みを進めていることが分かった。 ・各市町村の取り組みをもとに、よりよい支援のあり方を圏域全体の課題として部会でも検討していく方向で今後考えたい。					
	(5)障がい者用トイレの大人用ベッド設置について ・県の福祉まちづくり条例に盛り込まれる予定。今後、新たな動きがあれば、情報提供等していきたい。					
ま と め	・今年度の活動計画について、皆で検討し、活動の方向性を確認することができた。 ・難病者の施策動向や小児在宅医療支援、災害時支援の体制整備状況等に関する情報を共有できた。					
次 回	・7月4日(金) 10:35 ~ 12:00、伊那養護学校にて開催する。					

26年度 自立支援協議会議事録

会議	部会名	第2回 重心・要医療的ケア 部会	参加者数	56 人	会場	伊那養護学校 会議室
	日時	26年 7月 4日 (金) 10:35 ~ 12:15				
主 題 マ	<p>1 伊那養護学校 つくし進路福祉懇談会(全体懇談会)の目的及び基調提案</p> <p>2 基調提案をもとにした意見交換</p>					
主 な 意 見 な ど	<p>1 について(伊那養護学校担当より)</p> <p>本懇談会の目的及び伊那養護学校の校内アンケートに基づく家庭の願いを整理した6つの基調提案についての説明が行われた。 懇談会の目的:「家庭の願いを共有し、地域づくりを共に考える」 長期的及び短期的視野に立って課題を整理し、家庭の願いから始まる地域づくりを皆で考えるきっかけとしたい旨の説明があった。 6つの基調提案は、次のとおり。((1)・(2)は長期的な目標、(3)~(6)については、短期的な目標)</p> <p>(1) 身体に特化した生活の場づくり (2) センターの医療施設を南信に (3) ショートステイの充実 (4) サービスの併用 (5) サービスが提供されていても受けられない状況への対応 (6) 日常の困り感への対応</p> <p>2 について</p> <p>6つの基調提案に沿って、まず保護者の願い、生の声をお聴きした後、医療、市町村、事業所等それぞれの立場から、現状や課題の共有、今後の展望などについて、意見交換が行われた。</p> <p>(1) 身体に特化した生活の場づくり ・身体にケアに特化した生活場所の創設について、土日や長期休暇、卒業後の日中活動、急なショートステイへの対応、医ケアへの対応、リハビリができる場等が近く通える場所にほしい。</p> <p>(2) センターの医療施設を南信に ・現状では、必要時にこども病院や信濃医療福祉センターを利用している。卒業後も圏域外の病院に頼ることが多いので、圏域にセンター的な医療施設があると大変ありがたい。</p> <p>(3) ショートステイの充実 ・病院でのショートステイへの期待がある。利用者、提供者双方にとって有益な形で充実を図れないか。</p> <p>(4) サービスの併用 ・ショートステイ時の行動援護・学校登下校時の移動支援など、サービスの併用を可能にしてほしい。</p> <p>(5) サービスが提供されていても受けられない状況への対応 ・サービスはあっても、いざ必要というときに空きがないなどの理由で受けられないことがある。少しでも状況を改善できないか。</p> <p>(6) 日常の困り感への対応 ・学校での学童保育のようなシステム、あるいは放課後デイ等のサービス事業への引き継ぎを丁寧に行うなど、日々の暮らしの中での困り感に寄り添う支援の充実を図れないか。</p> <p>・保護者からは、わが子の実態と直面している課題が、生の声で切実に語られ、一人ひとりの困り感をベースに参加者全員で、当事者や家族の思いや願いを共有した。 ・現行法や制度の中で、事業所や行政、医療機関もできることを工夫しながら対応している現状が語られた。 ・センターの医療施設の必要性は、関係機関も認識しており、今後、実態把握やこども病院とのさらなる連携の方途等、できるところから少しずつでも進めていけたらという意見もあった。 ・他圏域と連携した取り組みの必要性、当事者が声を上げ続けることの大切さに触れる発言もあった。</p>					
ま と め	<p>・伊那養護学校つくしグループの懇談会に参加することで、当事者の生の声をお聴きすることができた。</p> <p>・当事者の思いをもとに、事業所、行政、医療機関等それぞれの立場でできることを考えるきっかけとなった。</p>					
次 回	<p>・詳細については、後日お知らせする。</p>					

26年度 自立支援協議会議事録

会議	部会名	第3回 重心・要医療的ケア 部会	参加者数	28 人	会場	福祉まちづくりセンター 2階 大会議室
	日時	26年 10月 23日(木) 10:00 ~ 11:45				
主 テ マ	<ol style="list-style-type: none"> 1 難病の医療費助成の拡大について 2 上伊那圏域小児長期入院児等支援連絡会について 3 第2回部会 伊那養護学校つくしグループ懇談会の振り返り 					
主 な 意 見 な ど	<ol style="list-style-type: none"> 1 について(伊那保健福祉事務所より) 26.5.23に成立した「難病の患者に対する医療等に関する法律」について、資料をもとに、説明があった。 (1) 対象疾病の拡大(難病 56 約300疾病へ 小児慢性特定疾病 514 約600疾病へ 徐々に拡大) (2) 受給者数(難病+小児慢性特定疾病 約89万人(平成23年度) 約165万人(平成27年度試算見込)) (3) 難病医療費助成の変更(自己負担限度額・算定方法、疾患認定基準の変更、指定医制度等導入) (4) 小児慢性特定疾患医療費助成の変更(自己負担3割 2割、限度額算定方法変更 など) (3)・(4)とも施行日は27.1.1。ただし、既認定者には3年間の経過措置あり。 2 について(伊那保健福祉事務所より) 26.7.30に関係者が集まって行われた標記連絡会の概要について、報告が行われた。 (1) こども病院在宅支援病棟での重症心身障がい児看護研修 10.28~12.19の希望する1日で実施可。 (2) 救急情報提供カード 在宅療養児・者の急変時や災害時の情報提供ツールとして活用を。 (3) 重症心身障がい児の実数把握調査 正確な実数把握により、ニーズや資源の充足状況を探る。 (4) 課題:こども病院退院後の支援窓口が不明確。事例検討をしたい 要望を踏まえ、今後検討したい。 3 について (1) 伊那養護学校より、つくし進路福祉懇談会(全体懇談会)の振り返り報告が行われ、基調提案における6つの柱の中から、次の3つに焦点化して検討してほしい旨、提案があった。 ア 身体に特化した生活の場づくり 当面、伊南地域に1事業所対応可能なところを創出できないか。 イ センターの医療施設を南信に 上伊那にこだわらず、広く南信地域全体で連携、働きかけを。 ウ ショートステイの充実 病院でのショートステイの拡大・充実を目指したい。 (2) 提案を踏まえての意見交換(主な意見) ア 身体に特化した生活の場づくり ・病院が生活の場を提供できるかという難しい。医ケアの必要な方を事業所で受け入れるのも難しい。 ・医ケアが必要でない重心の方であれば受け入れられるという事業所もあるのではないか。 イ センターの医療施設を南信に ・必要性は認識しているが、一担当者として、組織の見解は示せない。まずは行政への働きかけが重要。 ウ ショートステイの充実 ・ショートステイを受けている病棟を地域包括ケア病棟にしたらどうかという動きもある。(昭和伊南病院) ・組合立の病院なら関係する市町村や行政組合に働きかけを行っていくのはどうか。 ・医ケアの必要な子への対応や実際のショートステイの様子を知りたいとの要望もあった。 (3) 今後の方向性 ・部会の経過を踏まえると、今回の伊那養護学校の提案は、部会の短期・長期目標とも合致する。 ・部会の長期目標(療養型病院の新設)は、今後細部を詰めた上で、全体会に諮り、県自立支援協議会へ課題提起する方向で進めることが、部会で承認されたため、その方向で取り組みを進めていく予定。 ・他の課題も、引き続き、事業母体や組織特性も踏まえた働きかけなどの工夫等、さらに詰めていきたい。 					
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・難病者の医療費助成拡大や長期入院児等支援連絡会の様子等について、情報共有を図ることができた。 ・伊那養護学校つくしグループの懇談会を振り返り、センター的医療施設の設置を部会として県自立支援協議会に上げていく方向性を確認することができた。 					
次 回	<ul style="list-style-type: none"> ・1月頃を予定したいが、現段階では未定。詳細については、後日お知らせする。 					

26年度 自立支援協議会議事録

会議	部会名	第4回重心・第6回療育 合同部会	参加者数	46 人	会場	伊那市福祉まちづくりセンター 2階 大会議室
	日時	27年 2月 16日(月) 14:00 ~ 16:00				
主 題 マ	<p>1 各部会等からの報告</p> <p>2 講演会 テーマ:「重症心身障がい児・者の地域生活 ~ 医療と関係機関との連携 ~」</p>					
主 な 意 見 な ど	<p>1 について</p> <p>今年度の活動経過について、それぞれの部会長等から報告が行われた。概要は、次のとおり。</p> <p>(1)重心・要医療的ケア部会より(市瀬部会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・25年度に引き続き、伊那養護学校つくしグループの懇談会に部会として参加し、部会としてできることを短期目標(既存資源の有効活用)と長期目標(療養型の施設等の新設)に照らし合わせて検討してきた。 ・長期目標は、今年度の県の自立支援協議会へ課題提起したので、さらに検討を重ねることを部会として確認した。 ・他圏域の取組みの様子や圏域の課題を探るため、本日の講演会を通して学びを深めていきたい。 <p>(2)療育部会より(小笠原部会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期からの支援を成人まで確実につないでいけるようにしたいとの願いから、「支援を縦につなぐ個別のファイル」(試案)を作成するため、ワーキンググループを立ち上げ、関係者の意見を踏まえ、検討を重ねてきた。 ・第7回療育部会において、1年間の検討結果を報告する予定である。 ・報告を踏まえ、引き続きご意見をいただきながら検討し、可能であれば平成28年度頃から実際に活用していけるよう準備を進めていけたらと考えている。 <p>(3)伊那保健福祉事務所より(田中主査保健師)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長野県では、今年度重症心身障がい児全数把握調査を実施し、上伊那圏域でも正確なりストを作成することができた。 ・調査をもとに、今後はニーズ把握と社会資源の充足状況等を多角的に検証していく予定である。 ・本日の講演会は、当所事業の一環でもあり、今後の方向性を探るヒントになればと願っている。 <p>2 について</p> <p>講演:「重症心身障害児生活実態調査 報告と他圏域の取り組み」 講師: 長野こども療育推進サークル ゆうテラス 代表 亀井智泉 氏</p> <p>質疑応答(略)</p>					
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・両部会の今年度の活動経過について、情報を共有することができた。 ・講演会を通して、他圏域の取組みを学び、圏域の課題を改めて考えるきっかけとすることができた。 					
次 回	<ul style="list-style-type: none"> ・重心部会は、今年度はこれで終了です。多くのおみなさんのご参加、ありがとうございました。 ・療育部会は、3月3日(火) 15:30~17:00 伊那養護学校 にて、第7回部会を開催いたします。 					